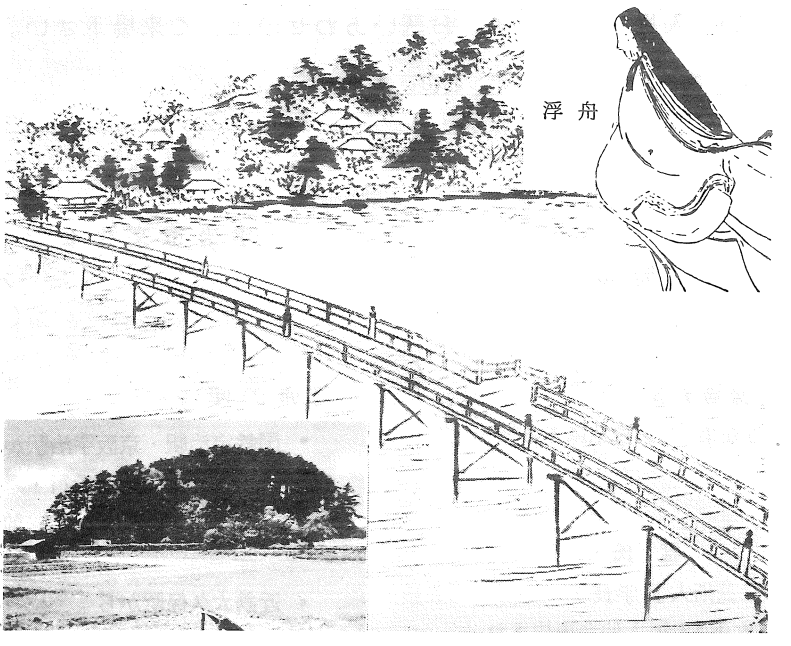
としょかん宇治

No. 7
1985年10月1日 発行
宇治市中央図書館
宇治市文化センター 内
〒611
宇治市折居台1丁目1番地
電話 (20)1511

12月14日（土） 午後2時～
梅原 猛氏 講演会 〈無料〉
文化センター大ホール



ものの ふの八十氏河の網代木に
いざよふ波のゆくへ知らずも
柿本人麿

菟道稚郎子の墓

待ち遠しい 梅原猛さんの講演

宇治市文化センター
総館長　谷岡武雄

私が初めてお付合いいただいた頃の梅原猛さんは、笑いの哲学にこり、熱心に落語や漫才の劇場に通っていた。島倉千代子の唄が好きだとか言って、学生たちの人気を集めていたように思う。これは今から二十数年も以前のことで、同じ立命館大学文学部の同僚として、私は梅原さんと話し合うのが好きでたまらなかった。残念なことには、例の大学紛争のおり、梅原さんは辞表を提出された。これほどの傑物を私たちは失いたくない。辞表の撤回を執拗に、深夜に及ぶまでお願いしたけれども、遂に聞き届けてもらえなかった。

しかし、このことは梅原さんの研究生活にとって大きな転機をもたらした。京都市立芸術大学において再び教鞭を執るようになられるまでの間に、梅原さんは読書と思索とそして執筆の生活に没頭された。その結果として世にあらわれたのが、『隠された十字架』であり『水底の歌』である。これら一連の日本古代史の謎を解明する著作によって、梅原さんは日本学の大家という評価が定まった。笑いの哲学者から、悲しみを掘りあてる古代史家への転身と言ってもよかろう。最近は幅をさらに広げて、アイヌ問題から宮沢賢治の世界にまでレパートリを広げておられる。

私はかって拙著の中で、梅原猛さんを畏友と書いてお叱りを受けた。偉友と書くべきであったと、今にして思う。最近の研究成果を早く、梅原さん自身の口から聞きたいものである。

宇治市文化センター開館一周年記念講演会（入場無料）

梅原　猛氏「宇治」についてはじめて語る！

「古事記」より菟道稚郎子，大山守命を，「万葉集」より柿本人磨を，そして「源氏物語」より浮舟。古代のロマンを宇治川を通してうかびあがらせます。先生にとってはじめての「宇治」をテーマにした講演です。

ご期待下さい。入場は無料です。お誘いあわせの上，ご来場下さい。

（入場整理券は，図書館 他にあります。お申込み下さい。）

▣　日　時

12月14日（土）

午後　2時～3時30分

▣　テーマ

『古典に登場する宇治』

―古事記・万葉集・源氏物語にみる―

▣　講　師

梅　原　　猛　氏

（京都市立芸術大学 学長）

略歴：1925年（大正14年）仙台市生まれ。京都大学文学部哲学科卒業。著書は「水底の歌」（第1回大仏次郎賞），「地獄の思想」「隠された十字架」など多数。

☆　主　催

宇　治　市

宇治市教育委員会

財団法人　宇治市文化センター

☆　後　援

NHK京都放送局

講演会の内容，その他くわしいことをお知りになりたい方は，宇治市中央図書館（電話 20－1511）まで，お問い合わせ下さい。

▣　場　所

宇治市文化センター

大ホール

（下図参照）

《交通の便》

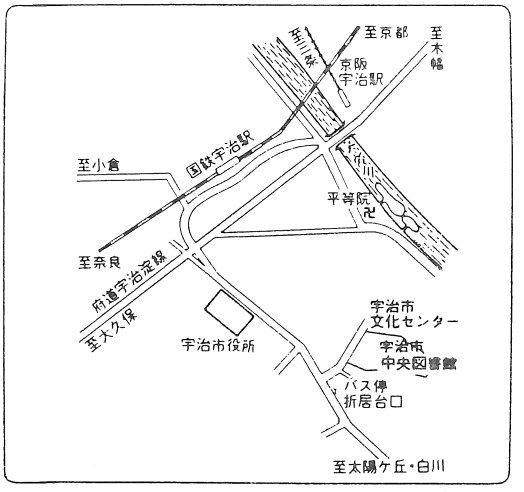
- 国鉄宇治駅・京阪宇治駅から

  バス……｛太陽が丘行・茶業センター前行｝

  折居台口下車

- 近鉄大久保駅から

  バス……（太陽が丘行）折居台口下車



子供たちを空想と冒険の世界へ!!

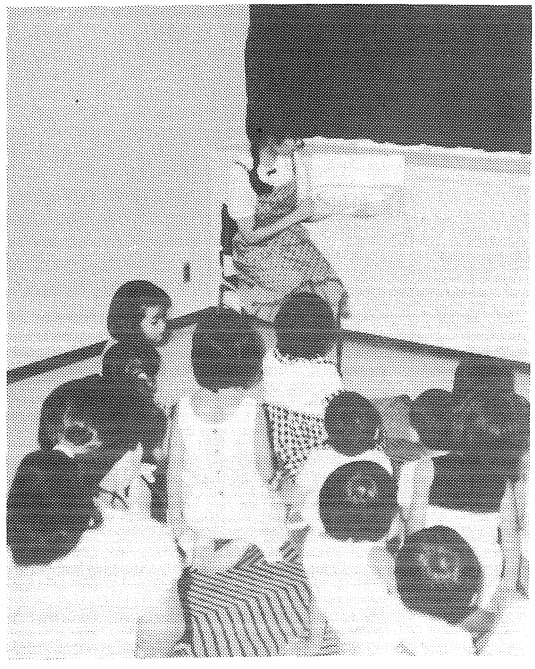
おはなし会

中央図書館では、児童への読書啓発活動の一環として、今年の六月から毎月一回おはなし会を開いています。これは、幼児から小学校低学年までの児童を対象にして絵本のよみきかせ、ストーリーテリング、紙芝居などを行っているもので、子供たちにお話のおもしろさ、本の楽しさを味わってもらい、本に親しみ、図書館を大いに利用してもらうことを目的にしています。

毎回約三十人の子供たちが集まり、絵本や紙芝居の世界にひたりきっています。特に、夏休み中の八月二十二日には約百人というたくさんの参加者のため、二回に分けて会を行いました。

子供たちが空想と冒険の世界に遊ぶおはなし会へのご参加を心からお待ちしております。

おはなし会は、毎月第四週の水曜日午後三時半～四時まで。
＊今年の開催予定……十月二十三日・十一月二十七日・十二月二十五日



絵本のよみきかせに見入る子供たち
（８月22日に行われた“おはなし会„より）

「クシュラの奇跡」から学ぶ

子どもとよい本との出合い

「クシュラの奇跡――百四十冊の絵本との日々――」（のら書房）という本がある。この本は、複雑で重い障害をもって生まれた少女の約四年間の養育記録であると共に幼い日によい本と出合うことの大切さ、本がいかに人の心に大きな力を与えるかを教えてくれる。

クシュラの両親は、泣きぐずる娘の苦痛を柔らげるため、しっかり抱きしめること、四カ月からは本を読んで時を過ごすことを育児方針とし、以降、クシュラと両親の絵本の世界への旅がはじまる。

クシュラにとって幸せだったのは、絶望の日々にも本を読み続けてくれた両親の信念と、祖母でもある著者、ドロシー・バトラーが読書教育に造詣深い書店経営者で、すぐれた絵本の中から、クシュラの発達に適した本を選ぶ助言を得られたことだった。

読書の力は、クシュラのもつ潜在能力を伸ばし、四歳前には、知力とりわけ言語発達が標準以上と判定されるまでに成長したのである。

クシュラを育んだ読書の力は、ことばの力ということもできる。子どものことばの体験は、日常的な話しことばの体験、テレビなどの映像をともなうことばの体験、そして絵本を読んでもらうことによる体験などがあるが、読書によることばの体験が前二者と異なるのは、物語という目に見えない世界を想像力（イマジネーション）によって、自分で心の中に思い描く作業が必要なことである。

すぐれた作家は、子どもの心の動きを熟知して、子どもの目の高さで、子どもの共感を得る世界を、簡潔でリズミカルな表現（ことば）で描き出す。

絵本の場合、さらに大切なのが絵の力である。子どもはまだ直接・間接の体験に乏しいから、想像力も十分とはいえない。そこで絵の力を借りて、自分のイメージを作りあげていく。質のよい、芸術性の高い絵に出会えば、子どもの心の中のイメージもよりよいものになるといえよう。

クシュラは、すぐれた絵本の数々を愛する両親に読んでもらう喜びを通して、読書の楽しさを知ると共に、想像の世界に遊ぶ力を身につけたのである。そして、クシュラにとって想像の世界の友は、障害による苦痛の日々を共に歩む友となり、心豊かに生きる力を与えてくれたのである。しかし、これこそ〝障害があろうとなかろうと〟子どもにとって大切なことではないかと作者は記している。

郷土のはなし

宇治橋の歴史

宇治は古くから風光明媚な土地として有名ですが、それだけでなく、宇治川と奈良街道の結節点に位置し、交通の要衝としても知られていました。宇治橋がここに架けられたのですから、重要な役目を果した橋であったことはいうまでもなく、山崎橋・瀬田橋とともに古代では三大橋の一つに数えられていました。

宇治橋は大化二年（六四六）、僧道登によって造られた、と橋寺にある「宇治橋断碑」に記されていますが、『続日本紀』には、僧道昭が造橋したと書かれています。どちらが正しいかは分りませんがいずれにせよ、七世紀中頃に架けられたことに間違いありません。

その後、宇治橋は洪水のため流失したり、あるいはこの付近が舞台となった合戦のため、撤去または破壊されたりしました。治承四年（一一八〇）の平氏と以仁王が争った橋合戦などは有名です。また叡尊が弘安九年（一二八六）に、十三重石塔の建立とともに、宇治橋再興に力を注いだのも、宇治橋の歴史を語るうえで忘れることはできないでしょう。

ところで、宇治橋にとって最も大きな影響を及ぼしたのは、文禄三年（一五九四）の豊臣秀吉による宇治川の改修でしょう。秀吉は伏見に城を築くとともに城下町の建設に取りかかりますが、交通を伏見に集中させるため、巨椋池中の小倉・向島間および、宇治・向島間に堤（太閤堤）を築き、向島・伏見には豊後橋（観月橋）を架設し、宇治橋を撤去しました。これによって京都・奈良間は宇治を経由することなく往来ができ、水上交通も含めて、この地域の交通大系が大変化をもたらしました。宇治橋はのちに徳川家康によって架橋されたものの、その機能は従来ほどではなくなりました。ただ大和と近江・北陸などを結ぶ橋として重要な役目を果していたことにちがいありません。

一方、宇治橋は、和歌や物語・絵画の題材としてよく取りあげられましたし、また橋を守る神である橋姫の伝説も宇治橋に関わる伝承としてよく知られています。これらのことは、宇治橋が宇治の象徴ともなっていたと考えてよいでしょう。

ともあれ、宇治橋は南山城の東と西を結び、京都の文化と奈良の文化を結ぶかけ橋になっていることは、今も昔もかわりありません。

- 中央図書館では、各種の郷土資料を収集しています。
- 宇治の歴史の本や地誌など寄贈をおまちいたします。

◎　土曜日も日曜日もあいていますので，どうぞご利用ください。

- 休館日は
  - ・毎週月曜日
  - ・毎月末日
  - ・国民の祝日
  - ・年末年始
- 本の貸出は
  - ・1人3冊以内
  - ・貸出期間は3週間
- 登録は
  - ・宇治市にお住まいの方，市内に通勤・通学されている方ならどなたでも。

— * — * —

市内24カ所に
移動図書館　そよかぜ号
が巡回しています。

- 一世帯に20冊まで
- 簡単な手続きで貸出
- 貸出期間は次の巡回日（約28日間）まで
- 日時，場所は毎月1日号の市政だより「そよかぜ号巡回日程」をご覧ください。

編集後記

▣秋晴れの日々、宇治川の流れは清く澄み、我々の目をなごませてくれます。今回の郷土のはなしは「宇治橋の歴史」についてです。いかがでしたか。古い歴史をもつわが郷土宇治。古くからの市民の方も、新しく市民になられた方も一度宇治の歴史をひもといてみませんか。新鮮な発見があるかもしれません。

▣中央図書館がオープンして一年をむかえます。宇治市文化センター開館一周年の記念講演会を、十二月十四日（土）午後二時より催します。先生にとってはじめての宇治をテーマにした講演です。ご期待下さい。

▣移動図書館「そよかぜ号」では九月より、北槇島地区（北槇島小）に新たに巡回をはじめました。ご利用をおまちしています。

▣読書に絶好の季節になりました。いい本にめぐり会った時の喜び、心のときめきは何ものにも代えがたいものです。本との出合いを求めて、お気軽に図書館へお越し下さい。